

2. 真珠養殖を取り巻く環境

(1) 真珠価格の動向

「ダイヤモンド市場」「金市場」「プラチナ市場」という言葉はよく耳にするが、「真珠市場」という言葉はあまり聞かないし馴染みもない。

真珠がダイヤモンドなどの貴金属と違うのは、真珠は人が作るもので、生産量の調整が可能ということである。すなわち真珠の価格は希少性よりも消費量と供給量の多寡で変動するといえる。

2008年9月の米証券会社リーマン・ブラザーズの経営破綻に端を発した金融危機により、輸出が大きな比重を占める真珠業界も大きな打撃を受けた。2008年は年内の越し物真珠の入札会を1か月延期して、年明けにするとという緊急措置をとったがそれでも価格は大暴落し、愛媛の真珠産業も深刻なダメージを受けた。

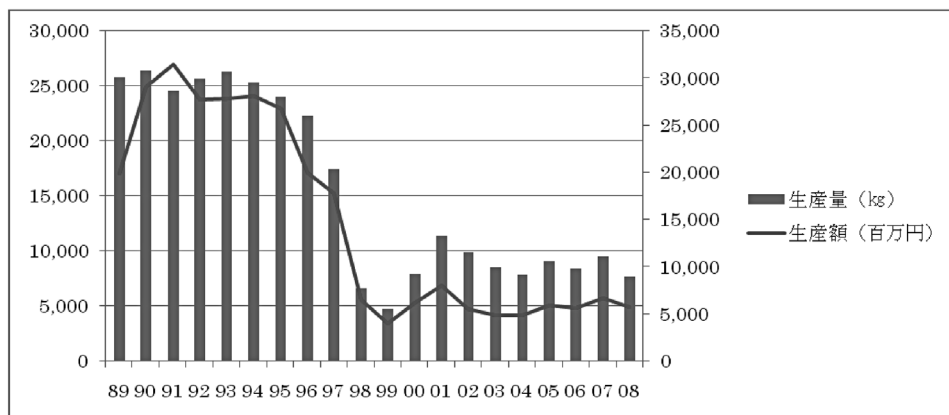
その結果、愛媛県産真珠の2008年度の生産額（共同販売実績）は、前年度の約51億円から半減し、過去30年で最低の約26億円になった。これは、ピークであった1994年度の約218億円の約8分の1の水準である。2009年度は前年度に比べて約4割増の約36億円に回復すると見込まれているが、前々年度と比べると約3割減とまだ低水準で、真珠価格が持ち直したとは言えない。

（ 図表1は暦年集計（1～12月）のため、本文の年度集計（4月～翌年3月）とは生産額が異なる。 ）

(2) 国内における真珠養殖状況

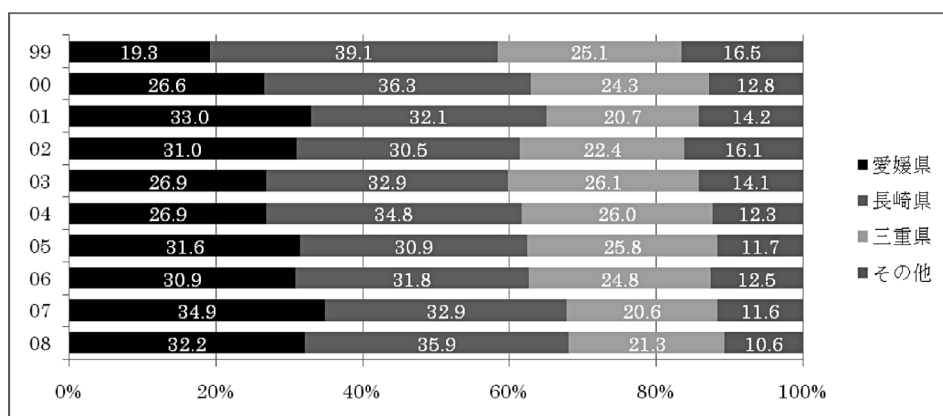
国内で真珠養殖を行っている県は、真珠養殖発祥の地である三重県のほかに、愛媛県、長崎県、高知県、佐賀県、熊本県などがあるが、生産量と販売額のおよそ9割は愛媛、長崎、三重の3県で占めている。（図表2）

図表1 県産真珠の生産量と生産額グラフ（1～12月の暦年集計）



グラフデータ：「愛媛農林水産統計年報」より

図表2 主要県別真珠養殖収穫量の割合の推移（1～12月の暦年集計）



グラフデータ：「愛媛農林水産統計年報」より